

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003
法人名	有限会社アースプロジェクト
事業所名	グループホーム敬愛 (Aユニット)
所在地	岡山市南区福田480-1
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 29 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105003-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防のため、施設の業務内容が大きく変わってはいないものの、かかりつけ医、看護師、介護士、介護支援専門員等の各専門職が協働してケアにあたり、着実に経験を重ねること、生活面・医療面ともにチームとしてのケア力を高めています。また、事業所理念のもと、この状況下において、一人ひとりに合った活動や生活に根差した支援の方法を模索し、日々職員間でアイデアを出しながら試行錯誤の中で実践しています。地域のお祭りや清掃活動への参加、ボランティアの方々の慰問を受ける等、地域に根差した施設運営を心掛けておりましたが、感染予防の観点から自粛しています。地域との関わりについても、新たな方法を見出していけるよう、柔軟な発想で取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者満足を目指す以上に、オーナーの職員ファーストが目につき、ほっこりムードが現場に流れ、職員の思いや意向等が耳に入りやすい。また、現管理者を指導してくれた先輩職員も多く、現管理者を後押ししていて、何でも話せる関係となっていた。前回の目標達成計画を確実に実行され、経営理念も大きく掲示し、もっとストーリーを以て具現化し可視化し、評価員冥利に尽きた。瞬間の笑顔が励みになるから、「一日三回笑わせよう」と自分の目標として、出来る事をちょこちょこつとやり続けたら、身近な関係が更に生まれ、激励の手紙やご意見を壁に掲示する事で、モチベーションが上がる前向きな姿勢に後押ししている。「何かすることないかな?」と、職員を追いかけて、自分のやりがい求めている方など、普段の暮らしをよく見て、気になる事を良く拾い、目配り気配り心配りを充実させていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内各棟2カ所ずつ掲示し、職員が理念を共有し、具体化して実践できるよう努めている。新規職員採用時には理念の説明を行っている。	各ユニットの入り口には、顔写真とモットーと共に理念を掲示し、意識しやすい様に工夫している。新入職者には、ケアマネジャーが、初日はオリエンテーションをし、先輩職員と1ヶ月を目途に業務に同行し、理解を深めて頂くとの事。職員は定着率が高く、風通しの良い職場風土となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会・老人会に加入し、地域の清掃や祭り等に参加していたが、感染予防の観点から自粛している。近隣の農家の方から野菜をいただいたりする等の交流はある。	町内会に加入していて、回覧板や清掃活動を通じて地域の情報を交換している。田んぼに囲まれた立地を活かして、日頃から散歩を通じて、近隣と馴染みになっていて、近隣の農家から枝豆や季節野菜の差し入れが続いている。また、敷地内の特養との交流もテラスで行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面にて活動状況等を紹介している。コロナ禍における施設の実践状況や日々の様子をお伝えすることで、地域の方々の日々の生活の参考になるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面に活動状況等を紹介し、アンケートやご意見を返送いただくことで、事業所の運営に生かしている。	書面会議に切り替え、従前通り、隔月で開催。活動の報告と予告をする事で、賛同のフィードバックが集まりやすく、リアル開催していた時のモチベーションが維持されている。メンバーは、市議・県議・婦人会・包括・家族・町内会長・愛育委員・老人会で、活発の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市からの連絡はメールで届く。研修やアンケートの指示には随時対応している。不明な点については、随時行政の担当者に問い合わせるようにしている。	窓口はケアマネジャーと事務とで連携しており、分からない事は、直ぐに電話で問い合わせる事で解決も早い。運営推進会議では市議や県議の参加も定例な事から、市町村との連携が取りやすくなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会や研修を年間スケジュールに沿って年4回ずつ開催し、日々のケアの中で、危険防止を理由に不適切なケアをしていないか、点検や振り返りの機会をもっている。	身体拘束はしていない。法人で研修委員を持っており、グループ事業所の管理者達が持ち回りで講師役となり、事例を事前アンケートで寄せて検討し合ったり、座学を組み合わせたりしている。研修会では「もし、自分がその立場だったら？」と意見を持ち寄り、実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する社内研修を年間スケジュールに沿って年4回開催し、日々のケアの中で、身体的・心理的虐待、介護放棄等の行為はないか、職員全員が自分のケアを振り返る機会をもっている。自覚なく行っている場合もあるため、カンファレンスで事例を取り上げ、全員で考え、注意喚起できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される入居者様は少しずつ増えているため、年1回社内研修を開催して、職員が制度についての理解を深められるようにしている。また、個別に必要性や要望があるご家族様に対しては活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者、看護師、介護支援専門員が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金、体調不良時の対応・看取り等の疑問や不安が生じやすいことに関しては詳しく説明し、書面にて同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時に聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気作りに配慮したりしている。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、書面による意見収集を行っている。	この業界におられた方が入居者となり、先輩目線で励ましや激励、指南を頂き、昔を懐かしむ話を職員は、利用者とソファに並んでお茶を飲みながら和やかな時間を漂わせていた。家族とは、今は専ら電話と面会時を活かし、利用者や家族の好みや趣味嗜好を把握し易い環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットごとにカンファレンスを開催している。代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関する事、職員体制、業務内容等について意見交換している。	平均10年勤務の職員が殆どで、何でも話せる関係となっていて、子育て世代と子育て卒業世代との勤務繰りを柔軟に対応している。法人代表は毎月の会議に参加しており、職員の様子を見て、個別に対応して、風通しのよい環境を作ろうと取り組みを続けられている。	No.2No.3の育成も重要課題だが、広き門としての職員の増員も考えて、何とか集客出来る仕組みを構築しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時現場に足を運び、業務内容や職員同士の人間関係等について把握している。家庭の事情や体調等に配慮して勤務調整をする等、働きやすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、書面での回覧を含め、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内文書を掲示して、参加を促している。また、資格取得について補助するしくみを設け、積極的にキャリアアップできる環境としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて外部研修等に参加し、意見交換や情報収集を行い、現場のケアに生かすようにしている。また、近隣の認知症デイサービスの地域運営推進会議に参加し、情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、生活状況を聞き取り、入居者様の不安・要望等の把握に努めている。入居後は意識的に会話機会をもち、信頼関係が築けるよう努める。施設での生活スタイルを強要せず、安心して自分らしい生活がおくれるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、ご家族様の困りごと、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。入居者様の生活の様子は、電話でできる限り丁寧に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様から相談を受けた場合には、事業所としてできることはすぐに実行し、実行が困難なことに関しては、入居者様・ご家族様と相談しながら、代替案や実現可能な方策を検討し、支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、洗濯物たたみや畑で穫れた野菜の始末等の簡単な家事や余暇活動等、自分の得意な部分で力を発揮していただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の「敬愛だより」の送付や電話等により、ご家族様にはこまめに入居者様の生活の様子を伝えている。困りごと等については、ご家族様と相談しながらケアに生かすなど、協力体制をとっている。また感染予防の観点から、面会はリモートやガラス越しとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の観点から、外出や面会は制限させていただいている。面会については、リモートやガラス越しとしている。	散歩をすると、近所の人は顔なじみ、近所の農家さんは差し入れが続いて顔なじみ、訪問理美容さんとも話に花が咲き、構内のテラスに出向けば、隣の特養の入居者が顔なじみとなっている。事業所と利用者は、すっかり地域の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、皆が集まる食事時やイベント時等に、職員が仲介して入居者様同士の会話が弾むよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の転居先についての相談を受けることがあり、介護支援専門員を中心に対応している。サービス終了後の関係性も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を個別に聞き取ったり、会話の中から想いを察する努力をしたりしている。意思疎通が困難な方にはご家族様から生活歴やエピソード等の情報を得るようにしている。	職員は、日頃から共有し蓄積した会話を、タブレット端末を使ってアセスメントや支援経過に落とし込み、『今日、今』の表情やしぐさを察知して意向を汲み取っている。職員の中には、利用者の非言語から察知する方がおり、表現が難しい方には、職員は、その職員を通じて意思疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、生活歴やライフスタイル等の詳細を聞き取るようにしているが、入居後、信頼関係ができた後に得られる情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で共有することで、ケアに生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の過ごし方、身体・精神状況の観察に努め、把握した内容については、記録や口頭での申し送り等により、情報共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、入居者様・ご家族様の望む暮らし方・困りごと・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については、ご家族様の想いや職員の意見等を反映させるようにしている。	入居時に立てたプランを3ヶ月毎のモニタリングを通じて半年毎に見直す。その間、状態や病状の変化に応じて見直す。本人・家族・提携医と事業所の看護師等の意見をプランに盛り込み交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や申し送り事項はタブレット端末に入力し、職員間で情報共有できるようにしている。状況変化時には、随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活用品等の購入については、職員が購入し、立替払いとしている。入院時には必要物品を準備し、ご家族様の負担軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の観点から、地域の婦人会や老人会との交流はできていない。近隣の認知症サービスの地域運営推進会議に書面にて参加し、情報交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の協力医の中から入居者様・ご家族様に選んでいただいている。それ以外の医療機関を希望される際は、基本的に職員が同行するが、希望があればご家族様にも同行していただいている。	入居前に提携先の4つの医療機関から選んで頂く。他科を含めて通院は、看護師が介助して情報を交換している。どの医療機関も、話しやすく連携が密であり、夜間でも診療に来られる。往診は月2回。訪問歯科あり。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置して入居者様の健康管理を行っている。介護職員は体調の変化を早期に発見し、看護職員に報告し、適切な医療につなげられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者様の医療・生活情報を医療機関に提供し、できる限り不穏・混乱なく、治療・処置が行えるよう連携を図っている。また、退院時にも医療機関と協働して、スムーズに移行できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針やご家族様の意向を書面にて確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも再度確認し、ケアの方向性にずれがないよう、細心の注意を払っている。	入居時の重要事項説明と、看取り期になる時の医師からも、改めて指針を話し合う場を設けて頂き取り決める。「もしもの時にどうされますか」と、家族の気持ちに寄り添って持ち出している。看取り研修は、年2回マニュアルを使用している。偲びのカンファレンスをお看取りした後に開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急・急変時の対応」についてはマニュアルを作成し、連絡体制や救急車の要請、誤薬対応等をわかりやすくまとめ、周知を図っている。また、看護師より随時助言・指導を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練(火災・洪水)を行う。また、月1回は定期防災チェックとして、火災・地震時の避難方法やスプリンクラーの止水方法・消防署への連絡方法等を確認し合っている。地震・津波時に備え、避難用名札を作成している。また、災害用の備蓄については、3施設協働の体制をとっている。	年4回の訓練では、火災と洪水を昼夜想定で利用者と構内の事業所と合同で開催している。マニュアルと緊急連絡網を完備し、備蓄は、敷地内事業所と合同で用意している。玄関には、水で膨らむ土嚢を配備している。	消防署や警察や学校なども、避難場所として関係を、より深めては如何でしょうか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時には他の方にわからないように小 声で声掛けをしたり、入室時にはノックや声掛 けを徹底し、入浴・トイレ時に他者に見られない ように配慮している。また、プライバシー保護に 関する研修を実施し、啓発に努めている。	呼称は苗字に「さん」を付ける。同姓同名の方 には、名前に「さん」を付ける。入室時は、ノ ックをして入室する。入浴前やトイレの失敗の 時など、扉を閉めたり、カーテンをしたり、タ オルをかける等して、肌の露出を抑えて尊厳と プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決 定できるように働きかけている	入居者様が話しやすい雰囲気づくりを心掛け、ゆっく りと傾聴するようにしている。発言を否定はせず、でき るだけ肯定的な言い方に変換するよう心掛けてい る。また、発語がない方も、表情やしぐさから思いや希望 を読みとる配慮をしている。選択肢を提示して自己決 定しやすいような配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひと りのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活の流れはあるが、したいこ とを尋ねるなどして、できる限り一人ひとりの生 活リズムや希望、体調に合わせて食事・入浴・ 排泄、レクリエーション等を随時変更するよう工 夫している。拒否のある時には、無理強いしな いよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援 している	季節や好みに合った服を選んだり、離床時に髪 を整えたり、リップクリームをつけたりするこ とを支援している。また、服や髪型を褒めるなど、身 だしなみへの関心を促している。月に1回訪問 理美容のサービスを提供し、散髪等に対応して いる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力 を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、 片付けをしている	メニューを掲示し、食事前に話題にすることで、 食事を楽しみに待てるよう工夫している。青魚 など食べられないものがある方には代替食を提 供している。施設内で採れた果物をおやつにし たり、好きなお菓子を選んでいただいたりして いる。	ケータリングから食事形態と個別に合わせてい る。リビングもよく陽が射し込み、静かで和やかで あり、食も進んでいた。おやつは、買って食べ たり、おやつレクとして一緒に作っている。利用者も 「やらして」と言う方がいるので、手伝って頂いた り、下膳をして頂き、和気藹々としていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保 できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援 をしている	体調や嚥下状態に合わせて随時食事形態を変更し たり、栄養補助食品で補食したりしている。また、離床 できないときには、居室で食事介助する。主食はそれ ぞれ計量して提供し、体重管理もしている。食事水分 の摂取量が少ないときには、看護師-医師に相談す ることとしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひと りの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行って いる。希望により訪問歯科を利用して、口腔内 の清潔保持に努めたり、口腔ケアの方法につ いて指導を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思疎通が困難な方は、表情やしぐさから尿意・便意を読み取り、トイレ誘導している。また尿意・便意のない方には2-3時間毎の定時誘導やおしめ交換を行っている。一人ひとりの体調や排泄パターンに合わせた支援を行っている。	トイレ誘導を基本としており、どうしても必要な方へのみ、夜間だけポータブルトイレを使用。排泄メモを活用して、利用者のパターンを把握しており、タブレットのデータと日頃のケアから読み取る利用者の表情やしぐさで、タイムリーに誘導する事が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、便秘時には下剤の調整等により排便コントロールをしている。また、水分摂取を促したり、適度な運動を勧める等の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回午前中の中の入浴だが、体調不良時や入浴を拒否される時には、入浴日や時間を変更したり、全身清拭にて保清する等、柔軟に対応している。また、入浴の時間が楽しめるように、浴室の壁面に飾りをつける等の工夫をしている。	入浴は週2回。増やしたい方には、出来るだけ対応する様にしている。季節湯では、菖蒲湯・柚子湯を提供。嫌がる方や重度の方には、清拭・足浴等を会話重視にしながら、楽しい時間となる様に工夫し、清潔と爽快感を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、居室臥床していただいたり、ソファで休んでいただいたりして、臨機応変に休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状書ファイルを作成して、いつでも効能・用法等を確認できるようにしている。与薬時には、誤薬がないよう、マニュアルに基づき、名前や日付などを複数回声に出して確認しあっている。飲み込み確認も徹底している。錠剤が飲み込めない方は、粉碎に変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、花の水替え等の日々の家事のほか、パズル、塗り絵、折り紙、歌を歌うこと等を、入居者様の力量や趣味・嗜好に合わせて提案し、できるだけ他者とのかかわりの中で過ごしていただけるよう声掛け・誘導をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の観点から、外出はできていないが、敷地内の散歩や玄関先での日光浴、果樹の収穫、洗濯干し等の支援はしている。	散歩が日常の事なので、一歩玄関を出れば、町内は馴染みばかり。隣の特養と構内のテラスや田んぼや用水路が、楽しいコースとなっている。広い敷地の周辺が身近な散歩コースとなっていて、出歩けば、近隣住民から挨拶を頂き、日を燦々を浴びられる暮らしがここにある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持・管理することはしておらず、買い物や外食に行った際の支払いは、立替払いとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインのビデオ通話、手紙で、ご家族様との交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面には、季節感のある作品を掲示したり、毎月季節に合った歌の歌詞を掲示したりしている。居室に花を生ける等、明るく心地よい空間となるよう工夫している。	大きなクリスマスのタペストリーが壁いっぱいに掲げられ、その中で黙々と食事をしている姿が印象的であった。服薬も、粉薬し、ゼリーと混ぜ、落葉の危険を察し、入れ歯が掃除機の中に紛れ込んで、直ぐ探す配慮等、リビングと職員の配慮から清掃を徹底した安心できる共用空間になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席やソファ席の席順は、介助の利便性だけではなく、気の合う入居者様同士が囲らなれるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と相談しながら、写真や色紙等の思い出の品を配置し、居心地よい空間となるよう支援している。介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。	どの部屋からも採光が充分に取れ、壁にぬり絵や写真、誕生日にもらった色紙等が、居心地の良さを生んでいた。生花を飾っている部屋もあり、利用者は職員と園芸セラピーを楽しんだり、災害時に避難先で直ぐに使える簡易寝具や介護ベッド・カーテン・エアコン・筆筒が備え付けられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは施設しない代わりに、「使用中」の札をかけた、台所や浴室には「立ち入り禁止」の札をかけ、混乱や行動の失敗を回避している。また、転倒予防のため、通路には物をは置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003
法人名	有限会社アースプロジェクト
事業所名	グループホーム敬愛 (Bユニット)
所在地	岡山市南区福田480-1
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 29 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105003-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防のため、施設の業務内容が大きく変わってはいないものの、かかりつけ医、看護師、介護士、介護支援専門員等の各専門職が協働してケアにあたり、着実に経験を重ねること、生活面・医療面ともにチームとしてのケア力を高めています。また、事業所理念のもと、この状況下において、一人ひとりに合った活動や生活に根差した支援の方法を模索し、日々職員間でアイデアを出しながら試行錯誤の中で実践しています。地域のお祭りや清掃活動への参加、ボランティアの方々の慰問を受ける等、地域に根差した施設運営を心掛けておりましたが、感染予防の観点から自粛しています。地域との関わりについても、新たな方法を見出していけるよう、柔軟な発想で取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者満足を目指す以上に、オーナーの職員ファーストが目につき、ほっこりムードが現場に流れ、職員の思いや意向等が耳に入りやすい。また、現管理者を指導してくれた先輩職員も多く、現管理者を後押ししていて、何でも話せる関係となっていた。前回の目標達成計画を確実に実行され、経営理念も大きく掲示し、もっとストーリーを以て具現化し可視化し、評価員冥利に尽きた。瞬間の笑顔が励みになるから、「一日三回笑わせよう」と自分の目標として、出来る事をちょこちょこつとやり続けたら、身近な関係が更に生まれ、激励の手紙やご意見を壁に掲示する事で、モチベーションが上がる前向きな姿勢に後押ししている。「何かすることないかな?」と、職員を追いかけて、自分のやりがい求めている方など、普段の暮らしをよく見て、気になる事を良く拾い、目配り気配り心配りを充実させていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内各棟2カ所ずつ掲示し、職員が理念を共有し、具体化して実践できるよう努めている。新規職員採用時には理念の説明を行っている。	各ユニットの入り口には、顔写真とモットーと共に理念を掲示し、意識しやすい様に工夫している。新入職員には、ケアマネジャーが、初日はオリエンテーションをし、先輩職員と1ヶ月を目途に業務に同行し、理解を深めて頂くとの事。職員は定着率が高く、風通しの良い職場風土となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会・老人会に加入し、地域の清掃や祭り等に参加していたが、感染予防の観点から自粛している。近隣の農家の方から野菜をいただいたりする等の交流はある。	町内会に加入していて、回覧板や清掃活動を通じて地域の情報を交換している。田んぼに囲まれた立地を活かして、日頃から散歩を通じて、近隣と馴染みになっていて、近隣の農家から枝豆や季節野菜の差し入れが続いている。また、敷地内の特養との交流もテラスで行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面にて活動状況等を紹介している。コロナ禍における施設の実践状況や日々の様子をお伝えすることで、地域の方々の日々の生活の参考になるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面に活動状況等を紹介し、アンケートやご意見を返送いただくことで、事業所の運営に生かしている。	書面会議に切り替え、従前通り、隔月で開催。活動の報告と予告をする事で、賛同のフィードバックが集まりやすく、リアル開催していた時のモチベーションが維持されている。メンバーは、市議・県議・婦人会・包括・家族・町内会長・愛育委員・老人会で、活発の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市からの連絡はメールで届く。研修やアンケートの指示には随時対応している。不明な点については、随時行政の担当者に問い合わせるようにしている。	窓口はケアマネジャーと事務とで連携しており、分からない事は、直ぐに電話で問い合わせる事で解決も早い。運営推進会議では市議や県議の参加も定例な事から、市町村との連携が取りやすくなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会や研修を年間スケジュールに沿って年4回ずつ開催し、日々のケアの中で、危険防止を理由に不適切なケアをしていないか、点検や振り返りの機会をもっている。	身体拘束はしていない。法人で研修委員を持っており、グループ事業所の管理者達が持ち回りで講師役となり、事例を事前アンケートで寄せて検討し合ったり、座学を組み合わせていたりしている。研修会では「もし、自分がその立場だったら？」と意見を持ち寄り、実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する社内研修を年間スケジュールに沿って年4回開催し、日々のケアの中で、身体的・心理的虐待、介護放棄等の行為はないか、職員全員が自分のケアを振り返る機会をもっている。自覚なく行っている場合もあるため、カンファレンスで事例を取り上げ、全員で考え、注意喚起できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される入居者様は少しずつ増えているため、年1回社内研修を開催して、職員が制度についての理解を深められるようにしている。また、個別に必要性や要望があるご家族様に対しては活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者、看護師、介護支援専門員が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金、体調不良時の対応・看取り等の疑問や不安が生じやすいことに関しては詳しく説明し、書面にて同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時に聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気作りに配慮したりしている。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、書面による意見収集を行っている。	この業界におられた方が入居者となり、先輩目線で励ましや激励、指南を頂き、昔を懐かしむ話を職員は、利用者とソファに並んでお茶を飲みながら和やかな時間を漂わせていた。家族とは、今は専ら電話と面会時を活かし、利用者や家族の好みや趣味嗜好を把握し易い環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットごとにカンファレンスを開催している。代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関する事、職員体制、業務内容等について意見交換している。	平均10年勤務の職員が殆どで、何でも話せる関係となっていて、子育て世代と子育て卒業世代との勤務繰りを柔軟に対応している。法人代表は毎月の会議に参加しており、職員の様子を見て、個別に対応して、風通しのよい環境を作ろうと取り組みを続けられている。	No.2No.3の育成も重要課題だが、広き門としての職員の増員も考えて、何とか集客出来る仕組みを構築しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時現場に足を運び、業務内容や職員同士の人間関係等について把握している。家庭の事情や体調等に配慮して勤務調整をする等、働きやすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、書面での回覧を含め、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内文書を掲示して、参加を促している。また、資格取得について補助するしくみを設け、積極的にキャリアアップできる環境としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて外部研修等に参加し、意見交換や情報収集を行い、現場のケアに生かすようにしている。また、近隣の認知症デイサービスの地域運営推進会議に参加し、情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、生活状況を聞き取り、入居者様の不安・要望等の把握に努めている。入居後は意識的に会話機会をもち、信頼関係が築けるよう努める。施設での生活スタイルを強要せず、安心して自分らしい生活がおくれるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、ご家族様の困りごと、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。入居者様の生活の様子は、電話でできる限り丁寧に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様から相談を受けた場合には、事業所としてできることはすぐに実行し、実行が困難なことに関しては、入居者様・ご家族様と相談しながら、代替案や実現可能な方策を検討し、支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、洗濯物たたみや畑で穫れた野菜の始末等の簡単な家事や余暇活動等、自分の得意な部分で力を発揮していただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の「敬愛だより」の送付や電話等により、ご家族様にはこまめに入居者様の生活の様子を伝えている。困りごと等については、ご家族様と相談しながらケアに生かすなど、協力体制をとっている。また感染予防の観点から、面会はリモートやガラス越しとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の観点から、外出や面会は制限させていただいている。面会については、リモートやガラス越しとしている。	散歩をすると、近所の人は顔なじみ、近所の農家さんは差し入れが続いて顔なじみ、訪問理美容さんとも話に花が咲き、構内のテラスに出向けば、隣の特養の入居者が顔なじみとなっている。事業所と利用者は、すっかり地域の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、皆が集まる食事時やイベント時等に、職員が仲介して入居者様同士の会話が弾むよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の転居先についての相談を受けることがあり、介護支援専門員を中心に対応している。サービス終了後の関係性も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を個別に聞き取ったり、会話の中から想いを察する努力をしたりしている。意思疎通が困難な方にはご家族様から生活歴やエピソード等の情報を得るようにしている。	職員は、日頃から共有し蓄積した会話を、タブレット端末を使ってアセスメントや支援経過に落とし込み、『今日、今』の表情やしぐさを察知して意向を汲み取っている。職員の中には、利用者の非言語から察知する方がおり、表現が難しい方には、職員は、その職員を通じて意思疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、生活歴やライフスタイル等の詳細を聞き取るようにしているが、入居後、信頼関係ができた後に得られる情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で共有することで、ケアに生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の過ごし方、身体・精神状況の観察に努め、把握した内容については、記録や口頭での申し送り等により、情報共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、入居者様・ご家族様の望む暮らし方・困りごと・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については、ご家族様の想いや職員の意見等を反映させるようにしている。	入居時に立てたプランを3ヶ月毎のモニタリングを通じて半年毎に見直す。その間、状態や病状の変化に応じて見直す。本人・家族・提携医と事業所の看護師等の意見をプランに盛り込み交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や申し送り事項はタブレット端末に入力し、職員間で情報共有できるようにしている。状況変化時には、随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活用品等の購入については、職員が購入し、立替払いとしている。入院時には必要物品を準備し、ご家族様の負担軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の観点から、地域の婦人会や老人会との交流はできていない。近隣の認知症サービスの地域運営推進会議に書面にて参加し、情報交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の協力医の中から入居者様・ご家族様に選んでいただいている。それ以外の医療機関を希望される際は、基本的に職員が同行するが、希望があればご家族様にも同行していただいている。	入居前に提携先の4つの医療機関から選んで頂く。他科を含めて通院は、看護師が介助して情報を交換している。どの医療機関も、話しやすく連携が密であり、夜間でも診療に来られる。往診は月2回。訪問歯科あり。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置して入居者様の健康管理を行っている。介護職員は体調の変化を早期に発見し、看護職員に報告し、適切な医療につなげられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者様の医療・生活情報を医療機関に提供し、できる限り不穏・混乱なく、治療・処置が行えるよう連携を図っている。また、退院時にも医療機関と協働して、スムーズに移行できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針やご家族様の意向を書面にて確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも再度確認し、ケアの方向性にずれがないよう、細心の注意を払っている。	入居時の重要事項説明と、看取り期になる時の医師からも、改めて指針を話し合う場を設けて頂き取り決める。「もしもの時にどうされますか」と、家族の気持ちに寄り添って持ち出している。看取り研修は、年2回マニュアルを使用している。偲びのカンファレンスをお看取りした後に開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急・急変時の対応」についてはマニュアルを作成し、連絡体制や救急車の要請、誤薬対応等をわかりやすくまとめ、周知を図っている。また、看護師より随時助言・指導を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練(火災・洪水)を行う。また、月1回は定期防災チェックとして、火災・地震時の避難方法やスプリンクラーの止水方法・消防署への連絡方法等を確認し合っている。地震・津波時に備え、避難用名札を作成している。また、災害用の備蓄については、3施設協働の体制をとっている。	年4回の訓練では、火災と洪水を昼夜想定で利用者と構内の事業所と合同で開催している。マニュアルと緊急連絡網を完備し、備蓄は、敷地内事業所と合同で用意している。玄関には、水で膨らむ土嚢を配備している。	消防署や警察や学校なども、避難場所として関係を、より深めては如何でしょうか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも敬意の感じられる言葉がけを心がけている。トイレ誘導時には他の方にわからないように小声で声掛けをしたり、入室時にはノックや声掛けを徹底し、入浴・トイレ時に他者に見られないように配慮している。また、プライバシー保護に関する研修を実施し、啓発に努めている。	呼称は苗字に「さん」を付ける。同姓同名の方には、名前に「さん」を付ける。入室時は、ノックをして入室する。入浴前やトイレの失敗の時など、扉を閉めたり、カーテンをしたり、タオルをかける等して、肌の露出を抑えて尊厳とプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が話しやすい雰囲気づくりを心掛け、トイレ誘導や車いすを動かすとき等、ご本人様の希望を傾聴するよう心がけている。また、発語がない方や訴えがない方も、表情やしぐさから思いや希望を読みとったり、選択肢を提示して自己決定しやすいような配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事、体操などは、決まった時間に行うが、その他の時間は、できる限り個々の意向に沿って自由に過ごしていただけるよう、見守りや活動の提案をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、結髪、髭剃り、更衣等、その人らしい整容ができるよう対応している。衣替えを手伝ったり、更衣の際に同じ服にならないように配慮したりしている。また、「お似合いですよ」等と身だしなみに関心がもてるような声掛けを心がけている。寝たきりの方の顔を拭いたり、髪をといたり、服の乱れを整えたりすることも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時に食事メニューを紹介し、ミキサー食の方も楽しんで食事ができるよう工夫している。また、敷地内で穫れた果樹をおやつにしたり、近所の農家の方からいただいた枝豆を枝豆ごはんにして提供したりとすることもある。食事の準備や片づけは職員が行っている。	ケータリングから食事形態と個別に合わせている。リビングもよく陽が射し込み、静かで和やかであり、食も進んでいた。おやつは、買って食べたり、おやつレクとして一緒に作っている。利用者も「やらして」と言う方がいるので、手伝って頂いたり、下膳をして頂き、和気藹々としていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に合わせて随時きめ細かく食事形態を変更している。摂取量の少ない方や栄養状態の悪化した方は、栄養補助食品で補食している。主食はそれぞれ計量して提供し、体重管理もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態や吐水能力などを観察し、毎食後、歯ブラシ、スポンジブラシなどを使用し、一人ひとりに合った口腔ケアを支援している。希望により訪問歯科を利用して口腔内の清潔保持・治療に努め、時には口腔ケアの方法について指導を受けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握により、失敗なく排泄できるよう支援している。意思の疎通が困難な方は、表情やしぐさから尿意・便意を読み取る。また常臥床の方はおしめ交換となるため、排泄後となる。その方に合ったオシメやパッド類の検討も行っている。	トイレ誘導を基本としており、どうしても必要な方にも、夜間だけポータブルトイレを使用。排泄メモを活用して、利用者のパターンを把握しており、タブレットのデータと日頃のケアから読み取る利用者の表情やしぐさで、タイムリーに誘導する事が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、便秘時には下剤の調整等により排便コントロールをしている。また、水分摂取を促したり、適度な運動を勧める等の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴で、入浴日は職員の都合で決めているが、体調不良時や入浴を拒否される時には、入浴日や入浴順を変更するなど、柔軟に対応している。入浴は個浴のため、ゆっくりと時間をとり、会話が弾むよう心掛けている。	入浴は週2回。増やしたい方には、出来るだけ対応する様にしている。季節湯では、菖蒲湯・柚子湯を提供。嫌がる方や重度の方には、清拭・足浴等を会話重視にしながら、楽しい時間となる様に工夫し、清潔と爽快感を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、居室やリビングのソファなどで、臨機応変に休息がとれるよう促している。夜間は安眠できるように内服薬にて調整している方もおられる。居室の室温調整や寝具等の環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状書を個人ファイルに綴じて随時効能・用法等を確認している。変更時には、申し送り事項としてタブレットから変更点を入力して周知する。変更後は様子観察を徹底する。与薬時には、誤薬がないよう、マニュアルに基づき、名前や日付などを複数回声に出して確認しあっている。飲み込み確認も徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物やおしぼりたたみ等の日々の家事のほか、パズル、歌を歌うこと、貼り絵等、入居者様の力量や趣味・嗜好に合わせて提案し、できるだけ他者とのかわりの中で過ごしていただけるよう声掛け・誘導をしている。一人ひとりが何をしたいかを読みとるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の観点から、外出はできていないが、敷地内の散歩や玄関先での日光浴、果樹の収穫、洗濯干し等の支援はしている。	散歩が日常の事なので、一歩玄関を出れば、町内は馴染みばかり。隣の特養と構内のテラスや田んぼや用水路が、楽しいコースとなっている。広い敷地の周辺が身近な散歩コースとなっていて、出歩けば、近隣住民から挨拶を頂き、日を燦々を浴びられる暮らしがここにある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持・管理することはしておらず、買い物や外食に行った際の支払いは、立替払いとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインのビデオ通話で、ご家族様との交流を支援している。携帯電話を持参されている方へは、使い方の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等の壁面は、手芸や工作等の作品発表の場としており、明るく心地よい空間となるよう工夫している。リビングに陽がさしてまぶしすぎるため、カーテンで調節するようにしている。また、感染予防のため適宜換気をして、安全に配慮している。	大きなクリスマスのタペストリーが壁いっぱいに掲げられ、その中で黙々と食事をしている姿が印象的であった。服薬も、粉薬し、ゼリーと混ぜ、落葉の危険を察し、入れ歯が掃除機の中に紛れ込んで、直ぐ探す配慮等、リビングと職員の配慮から清掃を徹底した安心できる共用空間になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	感染予防の観点から、リビングのテーブル席やソファ席は向かい合わせではなく一方方向となっているが、気の合う入居者様同士が団らんできるよう席順に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の壁面には、写真や手芸作品等を掲示し、居心地よい空間となるよう支援している。掃除やシーツ交換の時に物の配置が変わらないように注意している。介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。	どの部屋からも採光が充分に取れ、壁にぬり絵や写真、誕生日にもらった色紙等が、居心地の良さを生んでいた。生花を飾っている部屋もあり、利用者は職員と園芸セラピーを楽しんだり、災害時に避難先で直ぐに使える簡易寝具や介護ベッド・カーテン・エアコン・筆筒が備え付けられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけたり、トイレは施錠しない代わりに、「使用中」の札をつけたりして、混乱や行動の失敗を回避している。手芸やカルタ、ゲームなどの物品は棚に整理して置いてあり、自由に取り出せるようになっている。歩行時に障害物がないよう、安全にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003
法人名	有限会社アースプロジェクト
事業所名	グループホーム敬愛 (Cユニット)
所在地	岡山市南区福田480-1
自己評価作成日	令和 3 年 11 月 29 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105003-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 3 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防のため、施設の業務内容が大きく変わってはいないものの、かかりつけ医、看護師、介護士、介護支援専門員等の各専門職が協働してケアにあたり、着実に経験を重ねること、生活面・医療面ともにチームとしてのケア力を高めています。また、事業所理念のもと、この状況下において、一人ひとりに合った活動や生活に根差した支援の方法を模索し、日々職員間でアイデアを出しながら試行錯誤の中で実践しています。地域のお祭りや清掃活動への参加、ボランティアの方々の慰問を受ける等、地域に根差した施設運営を心掛けておりましたが、感染予防の観点から自粛しています。地域との関わりについても、新たな方法を見出していけるよう、柔軟な発想で取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者満足を目指す以上に、オーナーの職員ファーストが目につき、ほっこりムードが現場に流れ、職員の思いや意向等が耳に入りやすい。また、現管理者を指導してくれた先輩職員も多く、現管理者を後押ししていて、何でも話せる関係となっていた。前回の目標達成計画を確実に実行され、経営理念も大きく掲示し、もっとストーリーを以て具現化し可視化し、評価員冥利に尽きた。瞬間の笑顔が励みになるから、「一日三回笑わせよう」と自分の目標として、出来る事をちょこちょこつとやり続けたら、身近な関係が更に生まれ、激励の手紙やご意見を壁に掲示する事で、モチベーションが上がる前向きな姿勢に後押ししている。「何かすることないかな?」と、職員を追いかけて、自分のやりがい求めている方など、普段の暮らしをよく見て、気になる事を良く拾い、目配り気配り心配りを充実させていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内各棟2カ所ずつ掲示し、職員が理念を共有し、具体化して実践できるよう努めている。新規職員採用時には理念の説明を行っている。	各ユニットの入り口には、顔写真とモットーと共に理念を掲示し、意識しやすい様に工夫している。新入職者には、ケアマネジャーが、初日はオリエンテーションをし、先輩職員と1ヶ月を目途に業務に同行し、理解を深めて頂くとの事。職員は定着率が高く、風通しの良い職場風土となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、町内会・老人会に加入し、地域の清掃や祭り等に参加していたが、感染予防の観点から自粛している。近隣の農家の方から野菜をいただいたりする等の交流はある。	町内会に加入していて、回覧板や清掃活動を通じて地域の情報を交換している。田んぼに囲まれた立地を活かして、日頃から散歩を通じて、近隣と馴染みになっていて、近隣の農家から枝豆や季節野菜の差し入れが続いている。また、敷地内の特養との交流もテラスで行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面にて活動状況等を紹介している。コロナ禍における施設の実践状況や日々の様子をお伝えすることで、地域の方々の日々の生活の参考になるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は感染予防の観点から、地域運営推進会議の開催はせずに、書面に活動状況等を紹介し、アンケートやご意見を返送いただくことで、事業所の運営に生かしている。	書面会議に切り替え、従前通り、隔月で開催。活動の報告と予告をする事で、賛同のフィードバックが集まりやすく、リアル開催していた時のモチベーションが維持されている。メンバーは、市議・県議・婦人会・包括・家族・町内会長・愛育委員・老人会で、活発の会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市からの連絡はメールで届く。研修やアンケートの指示には随時対応している。不明な点については、随時行政の担当者に問い合わせるようにしている。	窓口はケアマネジャーと事務とで連携しており、分からない事は、直ぐに電話で問い合わせる事で解決も早い。運営推進会議では市議や県議の参加も定例な事から、市町村との連携が取りやすくなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会や研修を年間スケジュールに沿って年4回ずつ開催し、日々のケアの中で、危険防止を理由に不適切なケアをしていないか、点検や振り返りの機会をもっている。	身体拘束はしていない。法人で研修委員を持っており、グループ事業所の管理者達が持ち回りで講師役となり、事例を事前アンケートで寄せて検討し合ったり、座学を組み合わせたりしている。研修会では「もし、自分がその立場だったら？」と意見を持ち寄り、実践に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する社内研修を年間スケジュールに沿って年4回開催し、日々のケアの中で、身体的・心理的虐待、介護放棄等の行為はないか、職員全員が自分のケアを振り返る機会をもっている。自覚なく行っている場合もあるため、カンファレンスで事例を取り上げ、全員で考え、注意喚起できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される入居者様は少しずつ増えているため、年1回社内研修を開催して、職員が制度についての理解を深められるようにしている。また、個別に必要性や要望があるご家族様に対しては活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者、看護師、介護支援専門員が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金、体調不良時の対応・看取り等の疑問や不安が生じやすいことに関しては詳しく説明し、書面にて同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時に聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気作りに配慮したりしている。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、書面による意見収集を行っている。	この業界におられた方が入居者となり、先輩目線で励ましや激励、指南を頂き、昔を懐かしむ話を職員は、利用者とソファに並んでお茶を飲みながら和やかな時間を漂わせていた。家族とは、今は専ら電話と面会時を活かし、利用者や家族の好みや趣味嗜好を把握し易い環境となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニットごとにカンファレンスを開催している。代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関する事、職員体制、業務内容等について意見交換している。	平均10年勤務の職員が殆どで、何でも話せる関係となっていて、子育て世代と子育て卒業世代との勤務繰りを柔軟に対応している。法人代表は毎月の会議に参加しており、職員の様子を見て、個別に対応して、風通しのよい環境を作ろうと取り組みを続けられている。	No.2No.3の育成も重要課題だが、広き門としての職員の増員も考えて、何とか集客出来る仕組みを構築しては如何でしょうか？
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は随時現場に足を運び、業務内容や職員同士の人間関係等について把握している。家庭の事情や体調等に配慮して勤務調整をする等、働きやすい環境づくりに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、書面での回覧を含め、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内文書を掲示して、参加を促している。また、資格取得について補助するしくみを設け、積極的にキャリアアップできる環境としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じて外部研修等に参加し、意見交換や情報収集を行い、現場のケアに生かすようにしている。また、近隣の認知症デイサービスの地域運営推進会議に参加し、情報交換や交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、生活状況を聞き取り、入居者様の不安・要望等の把握に努めている。入居後は意識的に会話機会をもち、信頼関係が築けるよう努める。施設での生活スタイルを強要せず、安心して自分らしい生活がおくれるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、ご家族様の困りごと、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。入居者様の生活の様子は、電話でできる限り丁寧に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様から相談を受けた場合には、事業所としてできることはすぐに実行し、実行が困難なことに関しては、入居者様・ご家族様と相談しながら、代替案や実現可能な方策を検討し、支援するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、洗濯物たたみや畑で穫れた野菜の始末等の簡単な家事や余暇活動等、自分の得意な部分で力を発揮していただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の「敬愛だより」の送付や電話等により、ご家族様にはこまめに入居者様の生活の様子を伝えている。困りごと等については、ご家族様と相談しながらケアに生かすなど、協力体制をとっている。また感染予防の観点から、面会はリモートやガラス越しとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防の観点から、外出や面会は制限させていただいている。面会については、リモートやガラス越しとしている。	散歩をすると、近所の人は顔なじみ、近所の農家さんは差し入れが続いて顔なじみ、訪問理美容さんとも話に花が咲き、構内のテラスに出向けば、隣の特養の入居者が顔なじみとなっている。事業所と利用者は、すっかり地域の馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、皆が集まる食事時やイベント時等に、職員が仲介して入居者様同士の会話が弾むよう働きかけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の転居先についての相談を受けることがあり、介護支援専門員を中心に対応している。サービス終了後の関係性も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を個別に聞き取ったり、会話の中から想いを察する努力をしたりしている。意思疎通が困難な方にはご家族様から生活歴やエピソード等の情報を得るようにしている。	職員は、日頃から共有し蓄積した会話を、タブレット端末を使ってアセスメントや支援経過に落とし込み、『今日、今』の表情やしぐさを察知して意向を汲み取っている。職員の中には、利用者の非言語から察知する方がおり、表現が難しい方には、職員は、その職員を通じて意思疎通を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、生活歴やライフスタイル等の詳細を聞き取るようにしているが、入居後、信頼関係ができた後に得られる情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で共有することで、ケアに生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の1日の過ごし方、身体・精神状況の観察に努め、把握した内容については、記録や口頭での申し送り等により、情報共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には、入居者様・ご家族様の望む暮らし方・困りごと・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については、ご家族様の想いや職員の意見等を反映させるようにしている。	入居時に立てたプランを3ヶ月毎のモニタリングを通じて半年毎に見直す。その間、状態や病状の変化に応じて見直す。本人・家族・提携医と事業所の看護師等の意見をプランに盛り込み交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や申し送り事項はタブレット端末に入力し、職員間で情報共有できるようにしている。状況変化時には、随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活用品等の購入については、職員が購入し、立替払いとしている。入院時には必要物品を準備し、ご家族様の負担軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防の観点から、地域の婦人会や老人会との交流はできていない。近隣の認知症サービスの地域運営推進会議に書面にて参加し、情報交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の協力医の中から入居者様・ご家族様に選んでいただいている。それ以外の医療機関を希望される際は、基本的に職員が同行するが、希望があればご家族様にも同行していただいている。	入居前に提携先の4つの医療機関から選んで頂く。他科を含めて通院は、看護師が介助して情報を交換している。どの医療機関も、話しやすく連携が密であり、夜間でも診療に来られる。往診は月2回。訪問歯科あり。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員を配置して入居者様の健康管理を行っている。介護職員は体調の変化を早期に発見し、看護職員に報告し、適切な医療につなげられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入居者様の医療・生活情報を医療機関に提供し、できる限り不穏・混乱なく、治療・処置が行えるよう連携を図っている。また、退院時にも医療機関と協働して、スムーズに移行できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針やご家族様の意向を書面にて確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも再度確認し、ケアの方向性にずれがないよう、細心の注意を払っている。	入居時の重要事項説明と、看取り期になる時の医師からも、改めて指針を話し合う場を設けて頂き取り決める。「もしもの時にどうされますか」と、家族の気持ちに寄り添って持ち出している。看取り研修は、年2回マニュアルを使用している。偲びのカンファレンスをお看取りした後に開催している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急・急変時の対応」についてはマニュアルを作成し、連絡体制や救急車の要請、誤薬対応等をわかりやすくまとめ、周知を図っている。また、看護師より随時助言・指導を受けたりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練(火災・洪水)を行う。また、月1回は定期防災チェックとして、火災・地震時の避難方法やスプリンクラーの止水方法・消防署への連絡方法等を確認し合っている。地震・津波時に備え、避難用名札を作成している。また、災害用の備蓄については、3施設協働の体制をとっている。	年4回の訓練では、火災と洪水を昼夜想定で利用者と構内の事業所と合同で開催している。マニュアルと緊急連絡網を完備し、備蓄は、敷地内事業所と合同で用意している。玄関には、水で膨らむ土嚢を配備している。	消防署や警察や学校なども、避難場所として関係を、より深めては如何でしょうか？

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苗字に「さん」づけで呼び、個々の人格やプライバシーを損なわないよう配慮している。忙しいときや馴染みの関係性から、馴れ馴れしい言葉遣いや態度になっていることがあり、プライバシー保護に関する研修の際には、日々のケアの振り返りをしている。	呼称は苗字に「さん」を付ける。同姓同名の方には、名前に「さん」を付ける。入室時は、ノックをして入室する。入浴前やトイレの失敗の時など、扉を閉めたり、カーテンをしたり、タオルをかける等して、肌の露出を抑えて尊厳とプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	帰宅願望ややりたいことなど、訴えや想いをゆっくりと傾聴するようにしている。また、発語や訴えがない方も、表情やしぐさから思いや希望を読みとったり、選択肢を提示して自己決定しやすいような配慮も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の都合や訴えの強い方の都合を優先してしまいがちではあるが、皆で行う時間と、個別に行う時間を設け、メリハリのある活動内容の提供を心がけている。個別の活動については、数種類の中から選んでいただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後、その人らしい身だしなみができるよう支援している。特に衣服に関しては、できるだけ同じ服にならないこと、汚れがないか等に配慮している。介助が必要な方については、見た目に加えて、着ていて楽な服、脱ぎ着がしやすい服を選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片づけをすることはないが、量や好み、食事形態等について、一人ひとりに合わせて提供している。施設内で採れた柿やミカン、琵琶などの果物をおやつとして提供し、季節を感じていただけるよう配慮している。	ケータリングから食事形態と個別に合わせている。リビングもよく陽が射し込み、静かで和やかであり、食も進んでいた。おやつは、買って食べたり、おやつレクとして一緒に作っている。利用者も「やらして」と言う方がいるので、手伝って頂いたり、下膳をして頂き、和気藹々としていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に合わせて随時食事形態や量を変更したり、栄養補助食品を使用したりしている。水分摂取量の少ない方には、ストローを使用したり、ゼリー状にしたりして摂取を促している。主食はそれぞれ計量して提供し、体重管理もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯ブラシやスポンジブラシを使い分け、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。また、保湿ジェルにて乾燥を予防している。希望により訪問歯科を利用して口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様ごとの排泄リズムに合わせて誘導や介助をしている。発語や訴えのない方も、しぐさや行動から察知して誘導し、できるだけトイレでの排泄が継続できるよう心掛けている。排泄動作についても、自立支援に努めている。	トイレ誘導を基本としており、どうしても必要な方へのみ、夜間だけポータブルトイレを使用。排泄メモを活用して、利用者のパターンを把握しており、タブレットのデータと日頃のケアから読み取る利用者の表情やしぐさで、タイムリーに誘導する事が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い、便秘時には下剤の調整等により排便コントロールをしている。また、便秘時には水分摂取や体を動かすよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴としているが、体調不良時や入浴を拒否される時には、入浴日や入浴順を変更するなど、柔軟に対応している。また、シャワー浴、半身浴、全身清拭等、状況に応じて個別に保清している。	入浴は週2回。増やしたい方には、出来るだけ対応する様にしている。季節湯では、菖蒲湯・柚子湯を提供。嫌がる方や重度の方には、清拭・足浴等を会話重視にしながら、楽しい時間となる様に工夫し、清潔と爽快感を味わって頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、居室臥床を促している。臨機応変に休息がとれ、メリハリのある生活ができるよう支援している。また、安眠できるよう、寝具の工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状書を個人ファイルに綴じて随時効能・用法等を確認している。変更時には、申し送り事項としてタブレットから変更点を入力して周知する。与薬時には、誤薬がないよう、マニュアルに基づき、名前や日付などを複数回声に出して確認しあっている。飲み込み確認も徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、メニュー書き等の家事や、パズル、ゲーム、歌等のレクリエーションの支援をしている。一人ひとりが何をしたいか、何ができるかを読みとり、それぞれに合った活動を勧めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防の観点から、病院受診以外の外出はできていない。施設敷地内の散歩や玄関テラスでの外気浴はしている。	散歩が日常の事なので、一歩玄関を出れば、町内は馴染みばかり。隣の特養と構内のテラスや田んぼや用水路が、楽しいコースとなっている。広い敷地の周辺が身近な散歩コースとなっていて、出歩けば、近隣住民から挨拶を頂き、日を燦々を浴びられる暮らしがここにある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持・管理することはしておらず、買い物の際の支払いは、立替払いとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やラインのビデオ通話、手紙で、ご家族様との交流を支援している。携帯電話を持参されている方の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等の壁面は、季節に応じた手芸や工作等の作品発表の場としている。華美な装飾にせず、除菌や清潔に配慮しながら、明るく心地よい空間となるよう工夫している。居室は、個別の写真や誕生日会等のイベントの写真を掲示している。	大きなクリスマスのタペストリーが壁いっぱいに掲げられ、その中で黙々と食事をしている姿が印象的であった。服薬も、粉薬し、ゼリーと混ぜ、落葉の危険を察し、入れ歯が掃除機の中に紛れ込んで、直ぐ探す配慮等、リビングと職員の配慮から清掃を徹底した安心できる共用空間になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル席は、感染予防のため、対面を避け、間隔をあけて座っていただいている。席順は、介助の利便性だけではなく、気の合う入居者様同士が臨席となるよう配置したり、トラブルにならないよう個席とするなどの配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様やご家族様の希望の物を置いたり、写真や自分で作った作品を掲示する等して、居心地よい空間となるよう支援している。介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。	どの部屋からも採光が充分に取れ、壁にぬり絵や写真、誕生日にもらった色紙等が、居心地の良さを生んでいた。生花を飾っている部屋もあり、利用者は職員と園芸セラピーを楽しんだり、災害時に避難先で直ぐに使える簡易寝具や介護ベッド・カーテン・エアコン・筆筒が備え付けられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に見やすいように大き目の表れをつけたり、トイレは施錠しない代わりに、「使用中」の札をつけたりして、混乱や行動の失敗を回避している。また、ベッドからの転落防止のため、床にマットを敷くなどしている。		